

京都新聞社賞



「晩秋の杜」 芝原 康夫
下鴨神社(京都市左京区)

KBS京都賞



「祭りの日」 田中 雅之
下鴨神社(京都市左京区)

エフエム京都賞



「日差しの木陰で……熱いエール!!」
西田 由起子
太陽が丘(宇治市)

NHK京都放送局賞



「みどりと日光と友だちと」
吉川 浩美
仁和寺(京都市右京区)

奨励賞

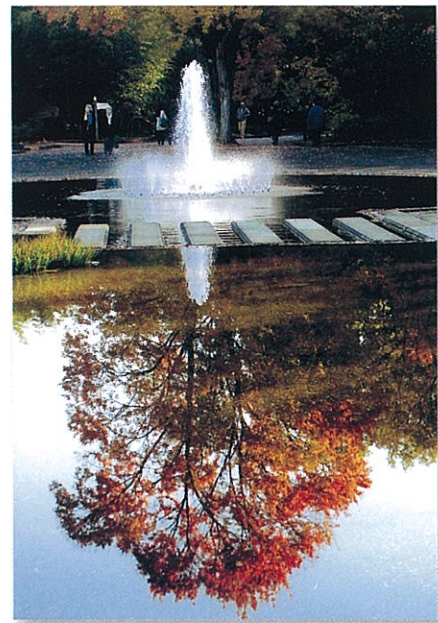


「白川と川遊びを楽しむ親子達」 青野 結実
白川(京都市東山区)

優秀賞



「桜めぐり」 下農 昭夫
岡崎(京都市左京区)



「紅映える」 西橋 弘
京都府立植物園(京都市左京区)



「幽玄」 深井 征子
嵐山渡月橋(京都市右京区)

佳 作



「静かな道」 安藤 一郎
境谷付近(京都市西京区)



「夏の始まりに」 岡本 正嗣
円山公園(京都市東山区)



「ただいま、春を配達中」 稲木 文男
天神の森付近(長岡京市)



「新緑の舟屋」 岡田 良弘
舟屋群(与謝郡伊根町)



「秋の散策」 奥村 博己
けいはんな記念公園(相楽郡精華町)

佳作



「八条ヶ池 春景」 小和泉 春男
長岡天満宮(長岡京市)



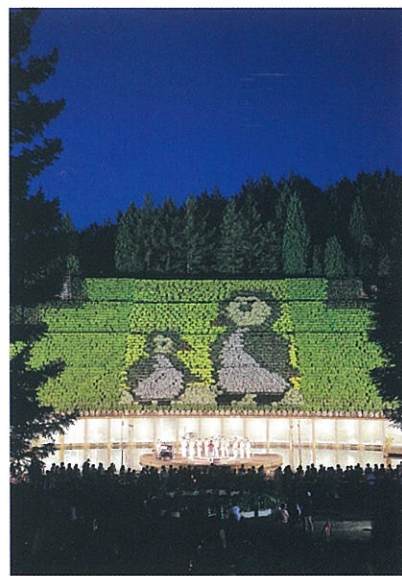
「若さはじける」 塩見 芳隆
白川(京都市東山区)



「追いかけて」 城田 祥男
佐古外屋敷(久世郡久御山町)



「綿帽子」 澤田 靖子
下鴨神社(京都市左京区)



「緑の中で」 角田 剛彦
宇治市植物公園(宇治市)

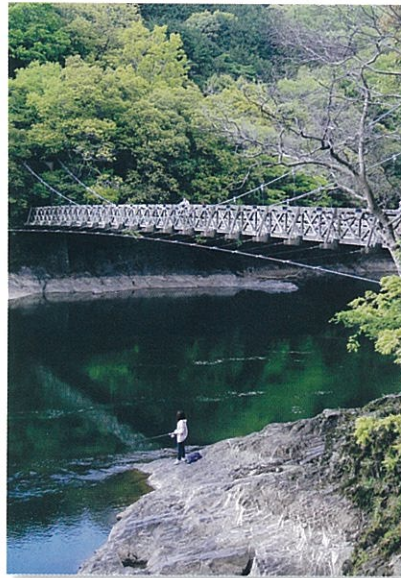
佳作



「駆けっこ」 立山 明宏
京都御苑(京都市上京区)



「朝に集う」 永井 眞知子
宇治川観流橋北(宇治市)



「釣れるといいね!!」 谷口 一男
宇治川天ヶ瀬吊橋(宇治市)



「散歩」 中澤 俊之
鴨川堤(京都市中京区)



「涼」 中村 守男
梅小路公園(京都市下京区)

佳作



「夢中」 平田 良夫
京都御苑(京都市上京区)



「青春で〜す!」 堀井 公雄
梅小路公園(京都市下京区)



「新緑の学習」 眞鍋 豊
京都府立植物園(京都市左京区)



「新緑の頃」 南井 さつき
桂川上野橋下(京都市右京区)



「一本橋」 薬師 正興
白川(京都市東山区)



「節分のかげ足」 山田 稔
太陽が丘(宇治市)

第29回 京都まちとみどり写真コンクール講評

審査委員長 井上 博義(京都写真家協会会長)

総評

今回、応募作品総数が523点、応募者数は170名(最年少11歳、最高齢93歳)の方々から寄せられました。これらの写真群には応募要項・細則にそぐわない作品、また構図においてまったく問題のない写真でありながら、パソコンソフトによる「シャープネス」や「彩度」の過剰処理によって異質に強調され、不自然な画像となった作品であるため、残念ながら選外となった作品が数十点ありました。特に後者に於いてはプリントの濃淡・色相彩は確かなご自身のスケールを常に持たれることをお勧めします。決して過剰調整依存型にならないで下さい。今一度、「自然とジックリ、向き合って構えて撮る。」この姿勢にリセットされては如何でしょうか?ご自分の想いを意のままに切り撮ることは、決して容易な事ではありませんが、ある時思わぬ自然風景に巡り合い、心ときめかしながらじっくり撮れた時の気分は爽快です。そして、その快感がまた次の撮影へと駆り立ててくれます。どうぞ基本に立ち返りノーマル且つシンプルな撮影で腕を競って頂くことを望みます。ちなみに、テーマ外・手振れ・甘ピン・粗粒子・過調整・合成などはマイナス要因です。

1 京都府知事賞 「桜咲く頃」

絢爛に咲き誇る桜、春真っ盛りです。暮なずむ頃の桜花に夕日が射し、ひときわ染まる事で立体感が増しました。枝いっぱい花が咲き乱れる中、僅かな橋の間に架かる趣のある橋。作者がこのスチエーションに遭遇、束の間時間の空間の中で瞬時に橋上の二組の配置に注視し、且つ画面右の灯明を遠慮気味に配されたことが構図に生かされております。この場の空気感すべてをこの画面に凝縮されたことに、素晴らしい一言です。見る者をも酔わせる作品となりました。

2 京都市長賞 「ラッキー」

青空の下、穏やかに流れる白川の川側に緑輝く柳が“ぐっと”画面を引き締めています。右に祭礼巡行列、左行者橋の架かる白川の流れ、若さ溢れるカップル、この場所に早くから寛いでいた最中に、折好く粟田神社の巡行列が側に来て「ラッキー」と携帯で記録。この時の作者のカメラ目線は非常に鋭く、行者橋上の人々の有無とカップルのこの動きを注視しながらのシャッター。タイトルは実のところ作者自身がおもわず発した「ヨッシャー!ラッキー」なのかも。派手な動きはないですが動感のあるすばらしい写真です。

3 特別賞(大山崎町長賞) 「寛ぎ」

雲ひとつ無い澄んだ青空に、山懐の木々の枝葉の緑と散り初めの桜、その枝間から垣間見える紅葉の芽吹きは春一番です。お二人はきっと、鶯の谷渡りの囀りのBGMにじっと耳を傾けて居られるでしょう。作者のコメントに「ゆっくりと時間が流れるそのような光景」と有り、まさにぴったりです。東屋の青い屋根、さりげなく見える雪見燈籠、女性の目線の先には緑豊かな五葉松、男性の目線はちょっと先の下草の緑。彩すべてが非常に綺麗な配色で構成されています。そしてもう一色、小鳥の囀り音も見えて来ます。

4 (公財)京都府公園公社理事賞 「休日」

秋色もいよいよ深まり、子供達にとっては屋内での時間が増え、退屈でつまらない日々を過ごすことが多くなって来る頃ですね。この日は小春日和となってお友達と一緒に公園。銀杏の色付いた落ち葉拾いに少し満足されている「はいポーズ!」。作者はこの若い二人のお母さんと子供たちの和やかな一時の情景を狙いました。中央の四人は対面交差しているような不可思議さと、両脇の幼児の意に介さぬ動作を捉えたところが面白くて良い。唯、横位置構図で決めればもっと良くなります。

5 (公財)京都市都市緑化協会理事賞 「二組の親子」

愛らしい幼児の指差す先にカルガモの親子6・7羽、片言の言葉を発して追い駆けようとしているのでしょうか。「ちょっとお母さん!何処を見ているのですか?カルガモのお母さんはしっかりと我が子を見守っていますよ!」この二組の親子の対象的な動きが画面構成で大きな動きをしています。作者は小道と水の流れの曲線をしっかりと構み取り構図に纏め楽しんで撮って居られるようです。ご家族の方なのでしょうか?見る者をも楽しませてくれる微笑ましい情景写真となりました。感服です。

6 (一社)京都府造園建設業協会賞 「街角」

初夏の街角、市街地のあちこちで良く見掛けるアジサイ風景。梅雨の晴れ間に咲く綺麗なアジサイ、それぞれの花や葉のディテールを非常に良く捉え、これが主体となって画面の殆どを占めている。見る者の目線を暫しアジサイに釘付けにし、ややあって左上の半正三角形の僅かなスペースに、さり気なく誘導するテクニクは作者の思う壺。ブルーの日除け傘を設えた洋風のオープンカフェ、そこにバギーを押す人物の動感をわざとあしらう手法はお見事です。穏やかなひと時、作者の高揚感を強く感じます。

7 京都市市長会会長賞 「落葉と遊ぶ」

秋意深まる頃のこの並木道は小川のせせらぎに黄色く染まる銀杏を映し、靴が埋もれる程の見事な黄葉を落とします。ほんの今、この空間が親子だけの憩いの広場となりました。束の間の童話の世界にタイムスリップし、周囲の喧騒の真っ只中にも係らず親子には全く耳に入っていない。優しい子供の仕種とお母さんの仄な笑みから母子の温もりが充分に伝わって来ます。黄葉を背景にした二人の服装が良く、特にお母さんのリュックの赤が好いアクセントとなってメルヘンチックな写真となりました。素晴らしいです。

8 京都府町村会長賞 「池泉に舞う」

春郊の午後の日差しを受けそよ吹く風によって気持ちよく泳ぐさま、そして緩やかな流線の散策道に憩う二人連れ、のどかな風景はいつまでも残したいですね。きっと作者も同じ思いで撮られた事と思います。このカットは鯉と奥の人物まで、完璧なピンで捉えられています。このようなケースはややすれば平面体となって表現が損なわれる恐れがありますが、主と脇との濃度差を付ける事で遠近感表現が可能になります。それがこのインパクトある素晴らしい写真となった一例と言えるでしょう。作者はベテランです。

9 京都新聞社賞 「晩秋の杜」

晩秋の午後の日差し、枯葉の絨毯に横じま模様の木々の影、作者はこの場面に人を配したく、待たれて撮られた成果は見事。アベックの枯葉を踏み締める音まで聞こえてくる非常に綺麗な写真になりました。イメージに近付ける努力が宝となります。

10 KBS京都賞 「祭りの日」

新緑の下で露店が連なる一筋の色を添え、木陰に蛇行する小川のせせらぎの流れに、児童が水に戯れる盛夏の空間を捉えました。そばでさりげなく見守るお母さんの様子が画面を引き立て良いのですが、もう少し右の集団が入るようにポジション移動がベストです。

11 エフエム京都賞 「日差しの木陰で……熱いエール!!」

綺麗な芝生のピッチで喚声を上げながら白球を追っている女子選手。応援されているチームの戦況が気になりますね。画面の左奥で三人がボールの奪い合いをしていますが、迫力を増すにはカメラ近くでのプレイが望まれます。画像は非常に落ちていて綺麗です。

12 NHK京都放送局賞 「みどりと日光と友だちと」

緑深まる仁和寺の境内、松林で思い思いに戯れる幼児の動作はまちまちで、小走りする子、何をしようかと戸惑う子。その子供達の服装が非常にカラフルで目を奪われます。作者も思わずカメラを向けられた気が写真に出ています。視覚の勝った素晴らしい写真です。

13 奨励賞 「白川と川遊びを楽しむ親子達」

作者は学生さん?テーマに則したこの川を被写体選ばれた事の狙いは非常に素晴らしいことです。ただ撮影ポイントが雑になったことで構図も煩雑となりました。漠然と撮った作品はやはりそれに近い写真となります。次回はもっと的を絞ってトライして下さい。

14 優秀賞 「桜めぐり」

桜もいよいよ葉桜告げる散華の舞、水面には多くの花筏がゆったりと、流れにまかせ川面に色を添える春の名残の宴です。名残桜に花筏、そして華を添えた舞妓さん、最高のシチュエーションに感服です。桜めぐりの舞妓さんの目線が作者に向けられたことで画面が一段と締まりました。

15 優秀賞 「紅 映える」

いよいよ秋も佳境になって来ましたが、青空に映えるクレンアイ紅葉を鏡状の池面に映し、噴水の形容とを旨く重ね繋ぎ、面白味を持たせたシンメトリックの発想が粋です。また噴水の向こうにモボ・モガ?の二人がアクセントになって更に好くなりました。

16 優秀賞 「幽玄」

撮影ポジション、右端をあえてカット、スローシャッターならではの川面の流れ、構図が非常に素晴らしく綺麗な写真です。作者はパソコンソフトを使いこなして居られるようですが、もう少し川面の色とコントラストを抑えて下さい。確かなカメラアイはベテランの味です。

★初心者の方へ★

自宅から一歩外に出ますと、そこは無限大の被写体のフィールドです。果てしなく移ろう季節の中の被写体と、じっくり向き合いながらポジション探しをし、フレームの中で主・脇の見定めをして、刻々と様相を変える光を見極めて撮る。この作画作業を積み重ねることにより腕に磨きがかかり、徐々にステップアップされて行く事は間違い無しです。どうぞ頑張って撮影行脚をされ、再度トライして下さい。最後に“写真は戯曲でもあり媒体する一コマにドラマが潜んでいます”。



第29回京都まちとみどり写真コンクール入選作品集

平成25年11月発行

発行・編集／京都府都市計画協会・(公財)京都市都市緑化協会 印刷／株式会社廣濟堂